

# ウイグル語における補助動詞"tur-"と本動詞の組み合わせ

藤家洋昭 (大阪大学) Reyihan Pataer (大阪大学 / 甲南女子大学)

## 1. はじめに

ウイグル語は、基本語順 SOV の膠着語であり、同じく基本語順 SOV の日本語とは並行的な文法現象が少なくない。補助動詞構文もそのひとつであり、日本語の動詞で動詞と並行的な構文が見られる。ウイグル語の補助動詞構文は生産的で、いろいろな動詞と自由に組み合わせることができるが、具体的にどのような動詞とどのような補助動詞が組み合わせるのかについては、詳しい研究がないように見受けられる。そこで、本研究では、ウイグル語の補助動詞の中からアスペクトを表すと考えられる tur- をとりあげ、本動詞との組み合わせを探り、組み合わせのメカニズムを記述する。

なお、本研究で扱う -p tur- は、通常、いわゆる進行形としては扱われない。いわゆる進行形とされているのは、動詞-wat 形である。

## 2. ウイグル語補助動詞構文

本研究でウイグル語の補助動詞構文と呼んでいるのは次のような構文である。

形としては、

動詞-p 動詞

の形をとる。前に来る「動詞-p」は副動詞と呼ばれるものであり、日本語のテ形によく似た働きをする。副動詞の例を次にあげる。

Kütüpxanigha béríp kitap oqudum.

図書館・与格 行く (副動詞) 本 読む (過去・一・単数) 「図書館へ行って本を読んだ (私は)」

この、補助動詞の前に来る、「動詞-p」を本研究では、(補助動詞構文における) 本動詞と呼ぶことにする。

補助動詞構文において、動詞の時制や人称は補助動詞が担って語形変化し、補助動詞の前に来る本動詞は、「動詞-p」のままで形を変えない。

例: Bu kitapni oqup boldum.

この 本・対格 読んで 補助動詞「この本を読み終えた (私は)」

上の例では補助動詞である boldum が過去一人称単数形に活用している。

## 3. 補助動詞の種類

これまでの研究では次のような動詞が補助動詞とされている (表 1) [2][3]。これらの補助動詞につけた日本語訳は、これらの動詞が、補助動詞ではない通常の動詞として用いられたときの代表的な意味である。

表 1 ウイグル語の補助動詞

kör- 「見る」, baq- 「世話をする、養う」, tur- 「立つ」, yür- 「進む」, bol- 「なる」, kel- 「来る」, chiq- 「出る」

従来の、これら補助動詞の研究は、もっぱら補助動詞そのものの意味用法についてが中心であり、本動詞との組み合わせという観点からのものは、部分的なものはあるが、ほとんどないと言ってよい。

本動詞と補助動詞全体の組み合わせは大変興味深いが、本研究では、まず手始めとして、補助動詞の中から tur- をとりあげる。

## 4. 補助動詞 tur- の用法

補助動詞 tur- の意味用法について、これまでの研究では

次のように記述されている[3]。

1. 一時的な状態を表す。
2. 繰り返しを表す。

表される意味から、いずれも、アスペクトに関係していると言ってよい。この内、本研究で扱うのは、1.の一時的状態を表す tur-である。

#### 5. tur- と組み合わせる動詞

前述のとおり、tur-がアスペクトを表すことは、これまでの研究からも明らかになっている[3]。アスペクトと動詞のアスペクト的分類が関係していることも明らかになっている。したがって、tur-とどのような動詞が組み合わせるかについて、すべての動詞を網羅的に調べるということはずに、アスペクトの点からめぼしをつけておこなうことにする。すなわち、意味的な観点から大雑把に代表的な動詞を選び、tur-との組み合わせを調べる。なお、ウイグル語には日本語[7]や英語[1]において見られるような、アスペクトの観点からの動詞分類がない。そのため、日本語や英語における分類をもとに、似たような意味を手がかりにとりあえず分類した。つまりこの時点の分類は、tur-と組み合わせるかどうかを調べる動詞リストを作るための、とりあえずの分類である。似たような意味の動詞が言語によって異なる動詞グループことは珍しくない。よく知られている例として、例えば英語の know と日本語の「知る」がある。前者は状態動詞に分類されるのに対し、後者はそうではない。

この、とりあえずの分類は、当然、再考されなければならない。手順として、tur-と組み合わせる動詞と組み合わせる動詞をグループ分けし、それぞれについて意味的性質を考察し、再分類することにする。

分類と調べた動詞は次のとおりである。分類は、Vendler によるもの[1]をもとに、動詞の種類の呼び方を影山のものにかえた。

状態動詞と思われるもの bil-「知る」、oxsha-「似る」、oltur-「住む」等

変化動詞と思われるもの tap-「見つける」、öl-「死ぬ」等  
移動動詞と思われるもの yügür-「走る」、yür-「進む」、su yüz-「泳ぐ」等

活動動詞と思われるもの ur-「なぐる」、tep-「蹴る」、itter-「押す」、tart-「引く」、oyna-「遊ぶ」等

これらの動詞に tur-をつけた用例を作成し、ネイティブスピーカーによる容認性を調べた。

結果、かなり広い範囲において tur-との組み合わせが見られ、tur-と組み合わせないということができるのは、bil-と oxsha- の2語であることが判明した。

#### 6. 組み合わせる / 組み合わせらない動詞の性質

上で見たように、すべての動詞が tur-と組み合わせるわけではなく、少数とは言え、組み合わせる動詞がある。以下では、これらの動詞の性質を考察する。動詞の性質の中で、具体的にはアスペクトに関する性質を見、方法としては、時間を表す修飾語による修飾と、分詞形にしたときの意味を調べる。記述の枠組みとして、語彙概念構造(LCS)を用いる。そして、動詞を影山[9]による LCS にもとづいて再分類する。

##### 6.1 動詞分類と語彙概念構造

状態動詞：BE (x, [AT y])

変化動詞：BECOME [BE (x, [AT y])]

移動動詞：MOVE (x)

活動動詞：ACT (x)

##### 6.2 副詞的修飾語との共起

###### 6.2.1 時間を表す修飾語との共起

時間を表す修飾語とは、「～時間で」といった時間枠の限定表現、「～時間」という継続時間表現の修飾語である。BECOME と MOVE に関しては、時間枠の限定表現で修飾できれば BECOME、継続時間表現の修飾語で修飾できれば MOVE であるとする[8]。

###### 6.2.2 量を表す副詞的修飾語による修飾

量を表す副詞的修飾語、例えば日本語では「たくさん」という副詞の解釈は、動詞の種類によって異なる[8]。量

を表す副詞的修飾語が、対象物の数量ではなく、動作を修飾する場合 ACT とする。

### 6.3 方向を表す与格名詞との共起

MOVE と ACT を見分けるために、方向を表す与格名詞との共起を観察する。方向を表す与格名詞とは、名詞に -ge/-gha/-qa/-ke が付いて方向を表すものである。

例：mektepke 「学校へ」

MOVE と ACT に関して、方向を表す与格名詞と共起できれば MOVE、できなければ ACT とする。

### 6.4 分詞形にしたときの性質

ここでは分詞形にしたときの性質を見る。ここでとりあげるのは、-gen 分詞で、完了を表すものである。この形の分詞形にして状態を表せば BECOME 状態を表さない、あるいは非文法的であれば BECOME 以外である[8]。

以上から、tur-と組み合わせることができる動詞は、変化動詞、移動動詞、活動動詞であることがわかる。

それでは、tur と組み合わせられない、bil-, oxsha-はどのような動詞であるか、性質を検証する。bil-oxsha-は、状態動詞であることが予想されるが、状態動詞について、英語における進行形、日本語におけるテイルのような、動詞活用のようなもののテストを用いることはできない。このため、副詞的修飾語との共起関係を考察する。

状態動詞は、時間的な制限にしばられない恒常的な状態を表し、開始や終了といった時間的な境界とは無縁である[8]。したがって、時間的な境界を表す副詞的修飾語との共起関係を見ればよい。次のようになる。

\* Tursun 1 saetla / 1 heptila / 1 ayla

トルスン(人名) 1 時間だけ / 1 週間だけ / ひと月だけ

Yaponche bildi.

日本語 知る(過去・三)

\* Imin yekshenbe künidin seyshenbe künigiche

イミン(人名)日曜 日から 火曜 日まで 父・dadisigha oxshidi.

所有三・与 似る(過去・三)

状態動詞でないものは、上記のような時間的修飾語と

共起できる。

Tursun 5 minutla yügürdi.

トルスン 5 分だけ 走る(過去・三)「トルスンは 5 分だけ走った。」

Tünügün etigendin kechkiche qar yaghdi.

昨日 朝から 晩まで 雪 降る(過去・三)「昨日朝から晩まで雪が降った。」

Imin yérim saet kitap oqudi.

イミン(人名)半 時間 本 読む(過去・三)「イミンは 30 分間本を読んだ。」

Tursun 5 minut oynidi.

トルスン 5 分 遊ぶ(過去・三)「トルスンは 5 分間遊んだ。」

さらに、5 章では bil-, oxsha-と同じグループに入れた、oltur-「住む」との共起も見えておく。

U öyde 1 ayla olturdi.

あの 家・位格 1 月だけ 住む(過去・三)「あの家に 1 ヶ月だけ住んだ。」

U öyde 4-aydin 12-ayghiche olturdi.

あの 家・位格 4 月・奪格 12 月まで 住む(過去・三)「あの家に 4 月から 12 月まで住んだ。」

U öyde 1 yil olturdi.

あの 家・位格 1 年 住む(過去・三)「あの家に 1 年間住んだ。」

上のような表現が可能なことから、tur-との組み合わせ巢以外に関しても、bil-, oxsha-とは性質が明らかに異なる。それでは、oltur-はどのような動詞に分類されるのだろうか。おそらく活動動詞に分類できると思われるが、詳しいことはわからず、今後の課題としたい。

以上のようなことから、bil-, oxsha-は状態動詞であると結論づける。

## 7. HPSG による記述

以上の事実を踏まえて、HPSG[5]による記述をおこなう。

まず、補助動詞とその前に来る本動詞のどちらが主辞かという問題があるが、時制や人称等、文法的情報のほ

とんどもを補助動詞が持っていることから、本研究では補助動詞が主辞であると分析する。したがって、補助動詞 tur-を有する文では tur- が主辞であり、tur-が動詞を下位範疇化すると分析する。この際、下位範疇化する動詞を指定する必要がある。前に来る動詞は-p 形であるので、FORM 値-p を指定する。これだけだと FORM 値-p を持つすべての動詞と組み合わせることを認可し、\*bilip tur-等を過剰生成してしまう。そこで、前章で見た、意味による区別を導入する。具体的には SEM に LCS を組み込み、下位範疇化する動詞の SEM 素性に BECOME あるいは MOVE あるいは ACT を指定する。

## 8. 結論

以上、ウイグル語の補助動詞 tur-と本動詞との組み合わせを見た。本研究の結果、tur と組み合わせらないのは bil-と oxsha-であることが明らかになった。また、それらは状態動詞であるということが出来る。組み合わせという観点から、補助動詞 tur-は、FORM -p を持ち、SEM として BECOME あるいは、MOVE あるいは、ACT を素性として持つ VP を下位範疇化する、と記述することができる。

## 参考文献

- [1] Zeno Vendler (1967), *Linguistics in Philosophy*, Cornell University Press.
- [2] Jaw Shyangru (1982), *Uyghur Tilidiki Yardemchi peillar Heqqide*, *Türki Tillar Tetqiqati* 1, Milletler Neshriyati.
- [3] Xemit Tömür (1983), *Uyghur Tilidiki Yardemchi Peillar we Ularning Menisi Toghrisida*, *Türki Tillar Tetqiqati* 2, Milletler Neshriyati.
- [4] Xemit Tömür (1987), *Hazirqi Zaman Uyghur Tili*, Milletler Neshriyati.
- [5] Ivan A. Sag & Thomas Wasow (1999), *Syntactic Theory*, CSLI.
- [6] Ruslan Arziyev (2006), *Uyghur Tili*, Mektep.
- [7] 金田一春彦(1950)「国語動詞の一分類」『言語研究』

15.

- [8] 影山太郎(1996)『動詞意味論』くろしお出版.
- [9] 影山太郎(1999)『形態論と意味』くろしお出版.